■おたより■

追悼・伊藤三喜庵先生

★東京都　鈴木　敞老師

伊藤画伯追悼特集号謹んで拝見させていただきました。貴寺総代並成寿挿絵等かけがえのない伊藤先生のご遺徳を偲び、合掌致します。と共に今後共益々の貴寺のご活躍を祈念致します。「伊藤三喜庵の世界」を改めて大切に拝見致します。

★福井県　木崎浩哉老師

故伊藤三喜庵先生の一周忌とか、優雅で気品のある数々の挿絵を通して、故き先生のご遺徳を偲び、虔んでご冥福をお祈り申し上げます。

★東京都　藤堂恭俊老師

伊藤先生と黒田老師の出会いを通してお二人の道交の深まり、手に取る様に感じられました。偉大なる出会い、佛ごころのぬくもりが輪を拡げ、明るい開かれた社会、争うことのないなごやかな世界の実現に連なる尊さをかみしめながら嬉しく存じます。

★東京都　山口　修先生

三喜庵先生の遺作が巻頭及び巻中の随所にちりばめられ心暖まる編集でした。黒田先生をはじめ寄稿された各位の文章それぞれに、崇佛の情感があふれています。アジャンタ、エローラ

の話などはかつて訪れた日のことがまざまざと思い起されました。写真も私と同じような角度から撮っており、人の思いは同じだなあと感じられました。

★横浜市　高野義郎先生

この雑誌にふさわしい絵と好ましく存じておりましたが、三喜庵という雅号のみでどのような方か存じ上げませんでした。もう御高作を拝見できないのは残念です。ご冥福をお祈り申し上げます。

★横浜市　石井修道先生

三喜庵先生にはお会いする機会はありませんでしたが、黒田方丈様の追悼文を拝読しながら、その人柄と二十一世紀を見通す眼力の持ち主であったことがよく理解できました。そして方丈様と三喜庵先生が常に互いの中で向上の仏世界を追及されていかれている様子に感動しています。回顧展の開催の時には、是非とも静かに三喜庵先生に対面したいと思っています。

★東京都　林　博明先生

伊藤三喜庵先生の御冥福をお祈り申し上げます。東隆眞先生からのお電話で照心館に来て下さいというお言葉をいただき、お会いしましたことが、昨日の様に心の中に残っています。『絵本ジョン万次郎の生涯』の本をいただきましたが、勉強不足の小生には内容がつかめず、只々本を眺めていましたことを思い出します。個展の絵は、三喜庵先生の独特の哲学的美学、想像力と人を感動させる心の豊かな表現力を教えてくださいました。偉大な三喜庵先生とは知らず大変失礼いたしました。

今、成寿を拝読して一字一句噛み締めています。力不足ですが先哲老師の残されました足跡

を一歩一歩踏み締めて、これからの人生に生かしていきたいと心得ています。

★東京都　伊藤　勲様

いつも楽しみに見させていただいておりますが、今回は私共ともご縁のある故伊藤喜三郎氏の追悼号ということで、興味深く読ませていただきました。編集に携わる方がおられるにせよ毎号、これだけの出版をなさることは、並大抵のことではないと考えます。尊く拝させていただくとともに、お心遣いに対する感謝とともによりご発展をご期待申し上げます。

★大木建設(株)　熊田洋之様

先日『建設通信新聞』に眼を通していたところ、伊藤喜三郎先生の遺作を収めた季刊誌が発刊されたことを知りました。厚かましくお電話させていただいたところ早速にも『成寿』のご恵贈にあずかり、御礼申し上げます。私は現在、建設業に勤務しております。仕事柄、伊藤喜三郎建築研究所様ともご縁があり、出入りさせてもらっております。三喜庵先生のお噂は、時々伺ったことはありますが、ご生前にはお会いする機会がなくて残念に思っております。

『成寿』を手にし、方丈様や皆様の文章を読み、先生の遺作を拝見して、ほんの少し先生の世界が理解できたように思いました。まだまだ沢山の作品があることでしょう。これを契機に勉強したいと思っております。挿絵に沢山描かれている仏像は、菩薩像であれ、四天王像であれ、優しそうな仏像が多く、これも先生の人間性のしからしむ所なのかと感じた次第です。有り難うございました。

★千葉市　藤田正子様

自由画壇の一会員として、又生徒として、伊

藤先生を失ったことは今更ながら残念でたまりません。夏の壇展のための作品を作成中に、「先生が生きていらっしゃればお教えも授けられ、ご注意もいただけるものを」などと、つい、思ってしまいます。でもがんばらねばなりません。これからもぜひ先生の作品を『成寿』その他、貴寺にて拝見できますことを心より願っております。

★横浜市　伊藤満子様

追悼号では数々の美しい絵、写真に感動しますと同時に、表紙の観音様が息子にそっくりで、主人と言葉もなく涙してしまいました。息子も絵が特技で数枚の絵しか残っていませんが、母親の私も息子を失ってから三ヶ月、為す術も無く、ただ息子の絵を描き、もう三十枚くらいになります。伊藤先生の絵を拝見し、何か力がわいてくる我に、これからも描き続けていきたいと思います。

◎『成寿』が『建設通信新聞』（平成九年四月二一日）で紹介されました。

ありし日の三喜庵先生
写真・作品でしのぶ
『成寿』春季号　故伊藤喜三郎氏を特集

横浜市港南区の成寿山善光寺（黒田武志住職）が発刊している『成寿』春季号では、故伊藤喜三郎氏（伊藤喜三郎建築研究所会長）の一周忌に合わせて「伊藤三喜庵先生追悼」の特集を組んでいる。

同氏は生前、三喜庵の雅号を持つ画家として活躍し、日刊建設通信新聞社主催の建設大臣杯・オール建設人ゴルフ大会会長代行も長年にわたって努め、その人柄は広く多くの業界人を魅了してきた。

昨年三月に惜しまれ、悲しまれて不帰の客となったが、菩提寺の善光寺発行『成寿』では、題字、表紙絵を伊藤先生の作品で飾り、巻頭のアルバムではありし日のはつらつとした姿を伝えている。黒田住職始め関係者の追悼文、同寺所有の豊富な絵画作品、絵本「ジョン万次郎の生涯」など、伊藤ワールドを満載している。

（以下省略）